

水辺遊びから淡水魚を学ぶ

Freshwater fish that learned from waterside play.

岩崎行伸

今日、自然・野外とくに川遊びをしている子供たちが少なくなっている。これに反して、中年以上の熟年の人達が子供時代の魚・昆虫・蝶・蜻蛉等取り遊びを語る時はいかにも得意気で楽しそうである。すでに、何十年もの昔のことでありながら水辺遊びの経験を細かく記憶し鮮明に表現する、その探究心と知識の深さ表現の豊かさには全く関心される。自然の中での遊びには、熟年と今の子供達との間にかかなりの差を感じている。その違いは近時代の開発研究・進歩による、遊びの変化が現状を表している。何時の時代でも子供らへの遊びの種は強制できないが、共に愉しむことのできる余暇を持ちたいと今に思う。

水辺遊びから学ぶことは、生き物たちの生命力・生態・生活環境・資源保護・保全等々多くの採集と水漕飼育経験から、それらの種的知識・技術・研究心そして記憶力を習得できることを裏付けている。

川の中流域の水棲環境は、どのようなものであるか。流れは緩やかとなり、大きく蛇行している。流れの速い瀬と緩やかなトロ場が存在し、交互に連なっている場がある。淡水魚の隠れ場にもなっている水草が茂っているところもある。

中流域にはどのような魚が棲息しているか。鯉類は生命力が強いので、下流域から上流域まで棲息している。汚れた水にも平常に耐え、溝のようなところでも棲んでいる。ヘラブナやギンブナは、中流域から下流域まで棲息し、釣り対象魚として人気の高い種である。

ウグイやヘラブナ・カワムツの生活圏も広く、春季になって産卵期を迎えると、浅い場の水面が盛り上がるほど群れて産卵する光景は見応えがある。モツゴは口が小さいことより釣り仲間ではクチボソともいわれて、大きくても体長10cmほどの淡水魚で、群れて行動している。メダカ(絶滅危惧種)は全長略3cmほどの魚で、日本に棲息している淡水魚の中で最小サイズである。

下流域は、中流域よりも川幅広がり、流れも緩やかとなる。川底には中流で見える小石なく、砂泥が堆積している。

川の勾配により潮の満ち干きの影響を受け、潮水が川に逆流してくることもある。このような場において釣りをしていると、よく釣れるのがヌマチチブと呼ばれるハゼの仲間。竿を揚げると、釣りバりが川底のゴミに根かかりしたよ

水辺遊びから淡水魚を学ぶ

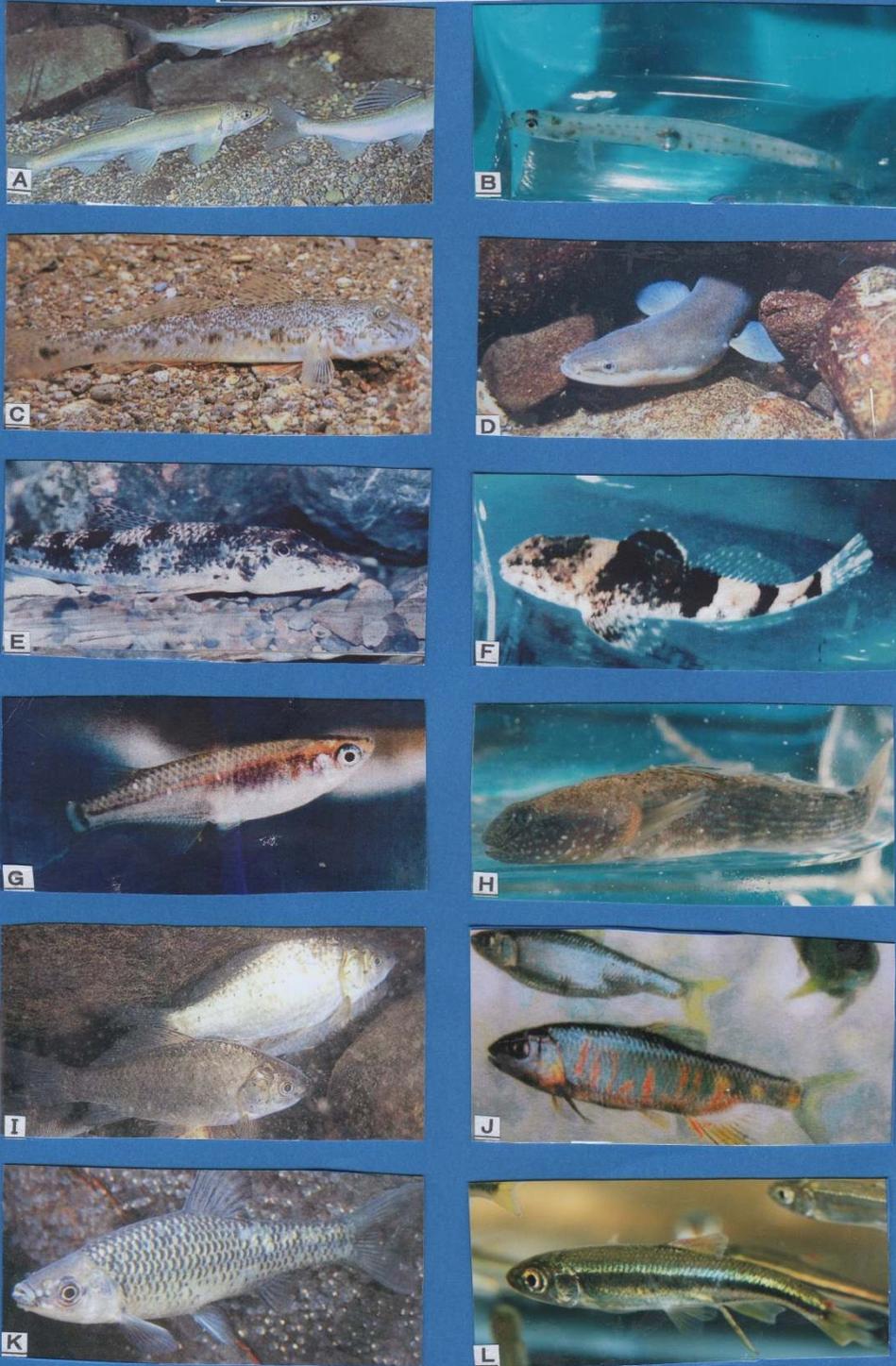


図 1. 水辺遊びから淡水魚を学ぶ (A : アユ、B : シロウオ、C : マハゼ、
D : ウナギ、E : カマツカ、F : アユカケ、G : メダカ、H : ヌマチチブ、
I : ギンプナ、J : オイカワ、K : モツゴ、L : カワムツ

うな重い感じで釣れる。

ナマズは水棲環境が良ければ体長 50cm にも成長し、夜間（摂餌）よく釣れる。沼や川に棲息。春季になると、支流（巴川）に上って産卵が行われる。

庵原川や興津川（静岡/清水）の春季の汽水域には、シラスウナギ・アユの稚魚・シロウオ・アユカケ・マハゼ・ボラ等の種の遡上が確認できている。

近年、静岡県下の河口にはシラスウナギやシロウオの遡上が資源的に減少しており、養殖業界（魚価面）にとって大きな課題が報道されたことである。

参考図書

- 1) 水辺遊びの生態学（2000）：琵琶湖地域の三世代の語りから、農山漁村文化協会、
嘉田由紀子・遊磨正秀著
- 2) 自然大博物館（1992）：魚貝類、小学館、相賀徹夫編著

添付資料

- 図 1. 水辺遊びから淡水魚を学ぶ-I (A : アユ、B : シロウオ、C : マハゼ、D : ウナギ
カマツカ、F : アユカケ)
- 図 2. 水辺遊びから淡水魚を学ぶ-II (G : メダカ、H : ヌマチチブ、J : オイカワ、
K : モツゴ、L : カワムツ)